Field Note
フィールドノート

「フィールドノート」は、毎号、研究者や実践者の方々にご登場いただき、自身の研究や経験から考える生物多様性について、エピソードを交えてご紹介いただくページです。
今月は千葉市動物公園の高橋宏之さんにご執筆いただきました。

動物園と生物多様性保全

■文　髙橋 宏之

去年と今年は何の年？

みなさんは、去年や今年が何年かご存知でしょうか。え、去年が「ネズミ年」で今年が「ウシ年」……そうですね、確かに十二支ではその通り。

けれど、実は去年が「カエル年」、そして今年は「ゴリラ年」だと言ったら驚かれるでしょうか。正式には「2008 International Year of the Frog（国際カエル年）」「2009 International Year of the Gorilla（国際ゴリラ年）」といいます。

「国際カエル年」とは、絶滅の恐れのある両生類を救おうと国際自然保護連合（IUCN）や国際動物園水族館協会(WAZA)が中心となり発足した「両生類の方舟プロジェクト」(Amphibian Ark Project) が推進する国際キャンペーンです。

一方、「国際ゴリラ年」は、WAZAの他、国連環境計画（UNEP）の「移動性野生動物種保全に関する条約締結会議（CMS：Convention on Migratory Species)」、そして、国連環境計画とユネスコ（UNESCO）との「大型類人猿保全パートナーシップ（GRASP：Great Ape Survival Partnership)」が推進する国際キャンペーンです。

ともに、世界中の動物園や水族館がこの一大キャンペーンを推進するための一役を担ってきました。

「国際カエル年」の際は、例えば、上野動物園や井の頭自然文化園を管理運営している財団法人東京動物園協会で、両生類の特別展を開催したり、園内はもちろんフィールドに出向いてのカエル観察会を行うなど様々なイベントを実施したのを始め、あちこちの動物園や水族館で絶滅が危惧されるカエルたちの保全の重要性をアピールしてきました。

「国際ゴリラ年」である本年も、例えば、前述した東京動物園協会では一般の方々から応募を募り「みんなのゴリラ作品展」を開催したり、当園でも「国際ゴリラ年企画展」を催し、ゴリラの生態や野生での現状について、多くのみなさんに関心を持っていただけるような機会を提供しています。

これらは決してカエルやゴリラだけを守ろうというキャンペーンではありません。カエルやゴリラの保全を図ることは、ひいては彼らを含めた生物多様性の保全にもつながっていく、そうしたメッセージを込めたキャンペーンなのです。

さて、それでは来たる2010年はいったい何年でしょうか？

2010年　生物多様性年

読者のみなさんもご承知の通り、生物多様性は、健康・福祉・食べ物・燃料といった我々人間が生を営んでいく上で欠かすことのできないあらゆる面に対して重要な関わりをもっています。生物多様性を保全することは、地球上の様々な生物を単に守るだけでなく、我々人間の持続可能な生活にとっても大切な行動といえます。

こうしたことを知っていただくために国連（UN）は来年を国際生物多様性年（2010 International Year of the Biodiversity）と定め、これまでのカエル年やゴリラ年同様、生物多様性に対する一大キャンペーンを推し進めていくこととしました。WAZAももちろん生物多様性年を支援しています。そして、WAZAのホームページでも生物多様性条約事務局のデイビッド・アインスワース(David Ainsworth) 氏がまとめた次の4点を生物多様性年の目標として紹介しています。

① 生物多様性を保全する重要性、ならびに生物多様性に対する脅威の根底となっていることへの気づきを高めること
② 地域や政府が生物多様性を守るように、また、生物多様性に対する脅威を減らす革新的な解決策を推進するように促すこと
③ 生物多様性の損失を防ぐための迅

Profile

髙橋 宏之（たかはし ひろゆき）

1999年　東洋大学大学院文学研究科教育学専攻修士課程修了。修士（教育学）。日本環境教育学会会員。現在は、千葉市動物公園でニホンザルやクモザルなど中型サル類の飼育を担当しながら、小学校への出張授業など教育活動に従事。これまでに、子ども動物園で保育園・幼稚園・小学校の子どもたちへの団体指導をはじめ、中学生・高校生の職場体験学習、大学生の博物館学芸員実習や社会教育主事実習にも従事。関心領域は、動物園教育，環境教育／学習，生涯学習。

国際ゴリラ年企画展示の様子

amphibian ark

国際カエル年のロゴマーク

2010年 国際生物多様性年

国際生物多様性年ロゴマーク

Year of the GORILLA
Année du GORILLE
2009

国際ゴリラ年ロゴマーク

速な解決策を図るように個々人や組織、政府に呼びかけること

④「生物多様性年」（2010年）の後に必要な次の段階へ向けた関係者同士の話し合いを始めること

（http://www.waza.org/en/site/conservation/2010-year-of-biodiversity を参照）

動物園は赤ちゃんからお年を召された方まで様々な年代の方たちが訪れる場所です。なんと1年間で、合計6億人を超える人たちが動物園や水族館を訪れているとWAZAは述べています。つまり、動物園や水族館はそれだけ多くの方たちに対して生物多様性の重要性をアピールできる機会をもった施設であることを示しています。

動物園は一般の方々にとっては、まだまだレクリエーション施設と思われがちです。しかし、そうした楽しい気分で園内を巡っていただきながら、生物多様性の重要性について少しでも思いを馳せる機会を提供できたら、そして、動物園や水族館で過ごした方たちが生物多様性の保全に向けて実際に行動を起こしていただけたら、なんと素晴らしいことでしょう。そう願いつつ、これからも動物園という場で活動していきたいと思っています。